

昔のくらしと道具

～六ヶ所村のくらしの移り変わりと道具の歴史～

ここ六ヶ所村立郷土館には、明治・大正期から昭和40年代にかけての昔の生活の道具だけでなく農具や漁具が収蔵されています。

今回は、民具や漁具の展示の他に、旧二又小学校の子供たちが制作した教育版画のカレンダーや昨年本館に寄贈された民具等も展示し、当時の人々が、どのような思いで、ここ六ヶ所村で生活していたのかを、「感じ取って」いただければ幸いです。

1 村内各地区における主な生業の変遷

泊地区は、江戸時代には「アワビ」が有名。長崎俵物として琉球や清まで輸出されていた。明治時代はカツオ、大正・昭和に入りイカが有名になる。



アワビ漁

村内では明治30年代から昭和8年ごろまで、イワシ漁が盛んだった。地引網漁の曳き子として、各地から移住する人がいた。イワシは煮て粕(肥料)として出荷。各地区に有力な網元が現れる。

尾駮や平沼では、江戸時代から大正時代までニシンを捕るマテ漁が行われていた。現在、高瀬川でマテ小屋(観光用)を見ることが



マテ小屋

尾駮や二又地区で、明治頃から昭和30年ごろまで、炭焼きが行われていた。大正4、5年頃「ドガマ」の製炭法が伝えられた。

江戸時代には南部藩の藩営牧場である有戸牧が、明治から戦中までは、軍馬補充部の放牧場があった。各集落でも冷涼な気候を生き、馬産が盛んであった。戦後、広大な国有地があった六ヶ所村に村内外から開拓者が入り、昭和30年ころからは畑作から畜産に転換し、国内有数の酪農地帯となった。

1970年以降、むつ小川原開発が進み、核融合施設や太陽光・風力発電所や日本原燃(株)などが立地し、エネルギーの村と大きく変貌している。



尾駮集落 昭和35年(1960)



太陽光パネルと石油タンク

2 主な展示物



アワビヤス:11月から2月まで、丸木舟に乗り、箱メガネで海底を見て、三本ヤスでアワビを突いてとった。



ドラム巻き式イカ釣り漁具:昭和33年(1958)ごろ、この漁具が開発され、個人の釣りの技能差がなくなる。船には、14、5人が乗り込んで回していた。



窓鋸:1920年代(大正時代中ごろ)に、福島県会津の四代目中屋友右衛門が木くずの入る「マド」がつけられた窓鋸を考案した。



デルビル磁石式電話機:1896年(明治29年)電話局の呼び出しは、電話機内部の磁石発電機を回し、電流を送って行った。昭和40年頃まで約70年間使用された。



真空管ラジオ コロンビア RA-71:これは日本コロンビアの全波スーパーラジオで、高級受信機。1948年にはオールウェーブ(短波と中波)として発売された。



コロンビアポータブル型蓄音器:ゼンマイ一つ付く「1丁(単)ゼンマイポータブル用薄型機械」で、ハンドルでゼンマイを巻いて回転させる。



そろばん:約500年前に中国から伝わり、梁の下に一珠が5つあった。尺貫法での十六進法で計算。江戸時代から昭和の初めまで使われた。



テレビ:1897年ドイツのフェルディナント・ブラウンがブラウン管を発明。1939年日本でテレビ実験放送開始。

道具は進化し続ける

ネット時代へ



3 旧二又小学校教育版画カレンダー



旧二又小学校で制作された教育版画カレンダー「山のしごと」「酪農のしごと」「生きている森林」からは、当時の人々の思いや生活の様子が垣間見られる。

4 泊婦人会の婚礼衣装 平成27年(2015)寄贈



古くから泊婦人会に受け継がれてきた花嫁衣装で結婚式の際に貸し出しされていた。

5 服装の移り変わり



男性用の袴羽織やマント。普段は長ツツレにモシキをはいた。女性はソデナシにタヅケをはいて、前ダレを締めた。

6 開拓の暮らし(庄内や上弥栄開拓団)



戦後、引揚者が村内外から入植し、開拓を始める。人力開墾や馬耕開墾による雑穀農業から畜産業や畑作に転換していった。

7 農村の暮らし体験コーナー



農作業に使った、唐箕・足踏み脱穀機・千歯子機・石臼・天秤棒を、実際に体験できるコーナー。

8 今年度の寄贈品展示コーナー



村内の3名の方からの寄贈品。胴巻き・水の水平器・水中眼鏡・陶器製の酒樽・ワツパ・編み笠・權・シヨイカゴ・味噌切り機他。

9 新旧のおもちゃコーナー



今から約50年前のおじいさんが子供の頃のおもちゃ。自然素材で作られ、手作りのものもある。外で遊ぶおもちゃや道具がある。



今から約30年前のお父さんやお母さんが子供の頃のおもちゃ。プラスチックで、買って帰って家の中で遊ぶものが多くなる。

10 ロビーにある貴重な昔の道具



腕用ポンプ:昭和14年に六ヶ所村が購入。人力でピストンを動かし放水する仕組みの消防のためのポンプ。明治8年(1875)に東京警視庁がフランスから輸入し、明治17年(1884)にドイツ製をモデルにして東京横山町の岡崎屋茂兵衛製作所で作られた。全国的にも現存する腕用ポンプは少なく、大変珍しい。

腕用ポンプは少なく、大変珍しい。



釣瓶井戸:井戸の屋形に滑車をかけて釣瓶桶で水をくみ上げるものを釣瓶井戸という。昭和30年代に入ると水道が普及し、姿を消していった。二又地区秋戸元太郎氏製作。(ロビーに展示中)

11 昔のおもちゃで遊ぼう



昭和30年まで使われていた文机やエンツコ、火鉢やちゃぶ台、小学校低学年用の勉強机を展示。



コマやケン玉、お手玉やヨーヨーであそんでみよう。

※寄贈いただき、ありがとうございました。

※ミニ凧・竹とんぼ・けん玉づくりもできます。